住基カードを活用した
サービス提供実験事業

参加企業を募集します

住民基本台帳カードは、全国どこでも住民票の写しの交付を受けることができるなどの機能を持ち、公的な身分証明書としても利用できます。そのほかに市町村が独自にサービスを追加することが可能です。ＩＴ（情報通信技術）を利用した行政サービスの提供手段として、今後さらに活用が期待されています。市内では、６月末現在で６７８０人（５・１９％）が交付を受けています。

市はこの住民基本台帳カードを普及させる１つの手段として、民間企業などとの提携を検討しています。今回、実際に提携した場合の効果と課題を検証するため、次の内容で実証実験事業を行います。

市は現在、この事業への参加を希望する民間企業などを募集していますので、ご協力をお願いします。

■事業内容

①参加する民間企業などが行うこと＝運営する施設などで市民が住民基本台帳カードを提示した場合に、利用料金の割引や各種特典を提供していただきます（提供するサービスの内容は企業が決めます）。

②市が行うこと＝広報おうしゅう、市ホームページなどでこの事業に参加する民間企業の名称や提供サービスの内容を市民に周知し、住民基本台帳カードの普及、市民生活の向上、地域経済の活性化などについて、効果的な取り組みかどうかを評価します。

■対象となる企業＝市内にサービス拠点を有する民間企業・団体・商店など

■実証実験期間＝８月５日（土）～平成19年３月31日（土）

■応募受付期間＝７月14日（金）～平成19年２月28日（水）

※受付順に審査を行い、決定後、参加企業などの名称、サービス内容などを周知します。

■問い合わせ・申し込み＝申込書は市ホームページから入手することができます。詳しくは本庁情報政策課（内線３２２）へどうぞ。

【住民基本台帳カード】
平成15年８月の住民基本台帳ネットワークシステム本格稼動に合わせて交付が始まった。希望する住民に市町村が発行するＩＣカード。市は証明書等自動交付な８つのサービスを加えています。交付を受ける際には手数料（奥州市は５００円）が必要。

街中場外馬券場の設置

意見をお聞かせください

水沢区のメイプル西館内に（有）総合広告オフィストライが「街中場外勝馬投票券発売所」の設置を計画しています。これを受け、水沢商工会議所などから、設置を求める要望が市に対して出されています。

水沢競馬場を有する市にとって「岩手競馬」は、馬と共存してきた地域の歴史と文化の継承や、地域に定着した雇用の場、地元への経済波及効果が大きい事業として社会的役割を果たしています。今回の場外馬券場の設置により、空き店舗の有効活用による街のにぎわいや雇用の創出など、中心市街地活性化にも効果が期待されます。

市はこの場外馬券場の設置について、市民の皆さんの意見をお聞きします。郵送、ファクス、Ｅメールなどで７月24日（月）までに本庁競馬対策室（FAX㉒２５３３、Ｅメール keiba@city.oshu.iwate.jp）へお寄せください。

▽問い合わせ…本庁競馬対策室（内線４２１）へ

街中場外勝馬投票券発売所
設置計画案のあらまし

▶**設置者**：（有）総合広告オフィストライ
▶**設置場所**：水沢区横町メイプル西館１階
▶**施設の内容**
・勝馬投票券発売所を併設した公共スペースです。お年寄りや買い物客などの憩いの場所となるほか、馬券を発売しない日には住民の要望に応じて、イベントや映画会などに活用できます。
・施設内外には警備員を配置し、防犯巡回を徹底します。また、清掃員を配置し美化を図ります。
▶**設置スペース**：約400平方㍍
▶**施設概要**：収容人員200人（固定式観客席70席）、大型ビジョン３台、発売窓口（発売機２台・有人発売２窓）、喫煙コーナー設置
▶**予定発売日数**：年間約250日（発売時間は午前10時から午後５時まで。ナイターレースの場合は午後２時30分から９時まで）
▶**駐車場・駐輪場**：メイプルの施設を利用

まちの活性化にも一役

蔵町に地産地消レストラン

蔵を生かした街づくりを進める江刺区の中心市街地に６月28日、新しい施設がオープンしました。蔵まち郷土食財館「えびや」は、観光客や市民に新鮮で高品質な地元産食材による料理を提供します。観光地としての魅力を高めるとともに、まちの活性化の弾みとなることが期待されています。

蔵まち郷土食財館は、旧江刺市が中心市街地活性化計画に基づいて整備していたもので、歩行者専用道・蔵町モールに面した土蔵など３棟を市が購入、改修してオープンしました。初日は、市や地元関係者らによるテープカットが行われ、新しい施設の誕生を祝いました。

建物は木造２階建てで、土蔵２棟を連結した形の外観。土蔵の老朽化が進んでいたため、基礎部分から改修したものですが、白壁の蔵としての特徴は随所に生かされています。客席は１・２階合わせて46席が用意され、中規模の団体客にも対応できるようになっています。内装にも土蔵の建具などが活用され、落ち着きのある、懐かしい雰囲気をかもし出しています。

施設の運営は、（株）黒船が市の委託を受けて行います。同社は地元の若手経営者らが設立した街づくり会社で、区中心部の岩谷堂に数多く現存する土蔵を生かした街づくりに取り組んできました。

現段階で、調味料なども含め全食材の約95％を県内から調達（６割は江刺区産）しており、１００％県内産で賄うのが目標。ことし秋には、江刺りんごワインや地鶏メニューなども提供される予定です。

▽問い合わせ…蔵まち郷土食財館えびや（☎㉟４５０１）へ

２棟の蔵を連結した構造が特徴の蔵まち郷土食財館

江刺体育文化会館

ささらホール

愛称が決まる

ルネッサンスアカデミアの高橋副理事長から表彰状を贈られる佐藤さん

公募していた江刺体育文化会館の愛称が決まり、６月20日に発表されました。市内外から65案の応募があり、選考の結果、佐藤幸子（ゆきこ）さん＝江刺区愛宕字梁川＝の案「ささらホール」と決まりました。「ささら」は、江刺区が誇る鹿踊（しし踊り）の装束の１つです。背中に背負った２本の長いささらは、御幣（ごへい）を意味するもの、また秋のたわわに実った稲穂を象徴するものともいわれています。

公募は、同館の指定管理者であるＮＰＯ法人いわてルネッサンスアカデミア（高橋克彦理事長）が、市民により親しみを持たれる会館にしていこうと実施しました。

６月30日に表彰された佐藤さんは「『江刺』の文字を入れないで、すぐ江刺を連想できる愛称をと思いました。選ばれて驚いています」と感想を話していました。

１００歳おめでとうございます

佐々木栄喜（えいき）さん（胆沢）

市からの記念品、岩谷堂箪笥（たんす）のミニ箪笥を贈られる佐々木さん

６月３日、胆沢区在住の佐々木栄喜さん＝若柳字上土橋＝の満１００歳を祝う祝賀会が開かれ、相原正明市長から記念品が贈られました。

佐々木さんは明治39年生まれ。大工職人や家業の農林業を営みながら、行政区長など地域のさまざまな役職を務めました。

今でも時々１人でバスに乗って買い物に出掛けるなど、１００歳とは思えないほど元気にお過ごしです。